

2015年

カクレいほ★ ★カクレいほ★ ★カクレいほ★ ニュース

6月号

発行 家計簿・暮らし調査研究会

コプのホームページ

http://www.ucoop.or.jp/hiroba/
report/kurashi/01/index.html

取材報告

「喜美子さんちの家計簿」展

行って
来ました!
 国立女性教育会館にて
2月1日～7月24日まで

5月21日に、家計簿・暮らし調査研究会のメンバーが、国立女性教育会館（東武東上線・武蔵嵐山駅下車徒歩12分）へ行き、職員の方にお話を伺いました。

テーマは「家計簿から見る女性の生活史」

中村喜美子さんが、克明に綴った家計簿の1955～1995年の40年間で、10年ごとに紹介・展示しています。

【1995 (S.30) 年～家計簿つけ始め】

戦後10年、この年の勤労世帯の月収平均は26,262円で、中村家の収入もほぼ一致。世は高度成長にさしかかり、中村家も1960年に洗濯機18,000円、電気釜3,200円を購入。日常ではもやし10円・パン30円・映画200円・電気代167円・銭湯15円・くみとり料59円など。

【1964 (S.39) 年、喜美子さんも収入が…】

下宿人（学生）を2人おいて月に2万円を得ていたが、これは夫の年間収入60万円の40%にもなる。1969年に生協で活動を始め、家計簿についてマスコミで多く取り上げられた。

【1973 (S.48) 年、狂乱物価と闘う】

オイルショックが起こるとインフレが加速。トイレットペーパー4ヶ入り88円が、いきなり170円に高騰。喜美子さんは、公害や食品衛生の問題にも関わり、超多忙の毎日となる。

【1991 (H.3) 年、バブル崩壊!】

中村家では個人年金・投資・生保・預金など、リスクを回避したものの、1994年に自己投資の経費は目減り。反面「職業・主婦費」は大幅増額となったが、賢くやりくりし、生活を楽しんでいる様子がうかがえる。

※この他、私達が発行した年間集計の一部展示や、喜美子さんの家計簿をまるごとカラーコピーして冊子にし、手に取って見られるコーナーもあり、充実した展示となっていました。

家計簿をプライベートなものに留めず、「社会に役立てよう」という喜美子さんの思い…。常に社会に目を向けていた「喜美子さんならではの」発想に脱帽です。

コプの家計簿が、貴重な資料として後世に残る事は、私たち家計簿モニターにとっても大変光栄な事だと思います。

★喜美子さんの家計簿の画像はインターネットで公開中です。
「国立女性教育会館 女性デジタルアーカイブシステム」
<http://w-archive.nwec.jp/>

中村喜美子さんのプロフィール

1929 (S.4) 年生まれ。長く神奈川生協（現・ユーコープ）の組合員として、家計簿運動や商品開発などで活躍。結婚以来60年以上、家計簿をつけ続け、そのうち56年分を国立女性教育会館に寄贈されました。

昨年、ユーコープ家計簿モニター交流会では講師として参加され、貴重で興味深いお話が好評でした。



カラコピした
家計簿を
手に取って見られ
ます。

独立行政法人 国立女性教育会館

(NVEC National Women's Education Center)
ヌエック

37年前、日本唯一の女性教育に関するナショナルセンターとして創設されました。男女共同参画を推進する多くの女性リーダーが育っています。

広大な敷地の中に、研修棟・体育施設・日本家屋施設などがあり、宿泊棟の利用も可能です。どこも手入れが行き届き、きれいで素晴らしい施設でした。

詳しくは ☎0493-62-6723 (予約係)

<http://www.nwec.jp>